

令和8年度第1回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：令和8年8月26日（水）13：00～15：00

場所：教育委員会室

議事1 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■資料1及び資料2に基づき事務局より説明

■主な意見

評価指標・評価基準について

- ・実績値が向上しているにもかかわらず進捗率評価が低く見える項目があり、取組の状況が分かりやすく伝わる評価方法となるよう工夫が必要。
- ・施策によって成果が現れる時期は異なることから、一律の進捗率による評価だけでなく、施策の特性に応じた評価指標や評価基準についても検討が必要。
- ・進捗率だけでなく、取組の過程や成果を分かりやすく示す工夫が必要。

教育DX・ICT活用について

- ・教育ダッシュボードやクラウド型採点システム等について、導入によってどのような効果があったのかを把握し、現場の声や好事例を他の学校へ展開することが重要。
- ・生成AIの普及を踏まえ、児童生徒の情報活用能力や教職員のICT活用指導力について、今後求められる内容を検討する必要がある。

読書活動の推進について

- ・幼児期には本に親しんでいる子どもが多い一方、小学校以降に読書離れが進んでいる。
- ・「読みたい本がない」「何を読んだらよいか分からない」子どもに対し、本と出会う機会やきっかけをつくることが重要。
- ・学校図書館や公共図書館の活用、本に関する情報発信など、子どもが本に関心を持つための工夫が必要。

不登校支援・心の教育について

- ・ステップアップルームで得られた知見を通常学級へ還元し、通常学級における授業づくりや支援に生かすことが重要。
- ・不登校支援については、学校復帰だけでなく、子どもの居場所づくりという視点も必要。
- ・子どもがSOSを出し、周囲が受け止めることができるよう、小学校段階から心の教育に取り組むことが重要。

特別支援教育について

- ・ 支援を必要とする子どもが増加する一方、経験豊富な教員が退職しており、保護者も今後の支援体制に不安を感じている。
- ・ 専門性を有する教員の育成を進めるとともに、すべての教員が特別支援教育の視点を持って指導できるよう、専門性の向上に取り組むことが重要。
- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画について、進学や就職など卒業後も見据えながら、小学校から高校まで継続して活用することが重要。

探究的な学び・山口県らしい人材育成について

- ・ 探究的な学習については、高校における取組や成果を小・中学校とも共有し、小・中・高等学校が一貫した視点で取り組むことが重要。
- ・ グローバル人材育成や探究活動について、現在の指標だけで成果を十分に把握できているのかを検討する必要がある。
- ・ キャリアパスポート等を活用し、児童生徒が自ら目標を設定し、取組を振り返りながら学習を調整する力を育成することが重要。
- ・ 保育園・幼稚園から大学までを通じた人材育成を一体的に考えていくことが重要。

保幼小連携について

- ・ 小学校教員の長期研修派遣は、幼稚園と小学校の相互理解や架け橋期のカリキュラム作成に効果があり、取組を広げることが望まれる。
- ・ 架け橋期のカリキュラムを作成するだけでなく、実際の教育活動に活用することが重要。
- ・ 管理職を含め、保育園・幼稚園と小学校の双方が相互理解を深め、継続して連携できる体制を整える必要がある。

その他

- ・ ネクストハイスクール構想等の取組成果の反映について
- ・ 社会教育主事及び社会教育士の養成・活用について
- ・ 用語の使い方や表記の統一について 他